

知って  
おきたい

Fantastic!  
ファンタスティック!  
漢詩ワールド

# 日本の 漢詩

宇野直人

第一回

儒臣の本懐

菅原道真



雪中早衙

風送宮鐘曉漏聞・  
催行路上雪紛紛・  
称身着得裘三尺・  
宜口温来酒二分・  
怪問寒童懷軟絮・  
驚看疲馬蹈浮雲・  
衙頭未有須臾息・  
呵手千廻著案文・

雪中の早衙

風は宮鐘を送つて曉漏聞ゆ  
行を催す路上雪紛紛  
身に称うて着し得たり裘三尺  
口に宜うて温め来る酒二分  
怪み問ふ寒童の軟絮を懐くかと  
驚き看る疲馬の浮雲を蹈むかと  
衙頭未だ須臾も息ふこと有らず  
呵手して千廻案文を著す

菅原道真

七言律詩（上平・十二文）

寒早十首 同用人身貧類四字

寒早十首 同く人・身・貧・類の四字を用ふ

其九

何人寒氣早  
寒早売塩人  
煮海雖隨手  
衝烟不顧身  
早天平働賤  
風土未商貧  
欲訴豪民推  
津頭謁吏頻

其の九

何れの人にか寒氣早き  
寒は早し塩を売る人に  
海を煮ること手に随ふと雖も  
烟を衝いて身を顧みず  
早天平働賤きも  
風土未だ商を貧ならしめず  
豪民の推を訴へんと欲し  
津頭吏に謁すること頻りなり

旅亭歳日招客同飲

招客江村歳酒盃・  
主人多被旅情催・  
家児浅酌争先勸・  
郷老多巡罰後來・  
愁戚去年分手出・  
笑容今日両眉開・

旅亭の歳日 客を招いて同に飲す

客を招く江村歳酒の盃  
主人旅情に催さるること多し  
家児は浅く酌んで先を争つて勸め  
郷老は多く巡らして後來を罰す  
愁戚す去年手を分つて出でしを  
笑容す今日両眉の開くに

菅原道真

七言律詩（上平・十灰）

欲知倒載非陽醉  
舟楫漁竿遺置廻

倒載の陽醉に非ざるを知らんと欲せば  
舟楫漁竿遺置して廻る

読家書

消息寂寥三月餘  
便風吹著一封書  
西門樹被人移去  
北地園教客寄居  
紙裏生薑称藥種  
竹籠昆布記齋儲  
不言妻子飢寒苦  
為是還愁懊惱余

家書を読む

菅原道真

七言律詩（上平・六魚）

消息寂寥たり三月の餘  
便風吹著す一封の書  
西門樹は人に移去せられ  
北地園は客をして居せ教む  
紙に生薑を裏んで藥種と称し  
竹に昆布を籠めて齋の儲けと記す  
妻子の飢寒の苦しみを言はず  
是れが為に還つて愁へ余を懊惱せしむ

謫居春雪

盈城溢郭幾梅花  
猶是風光早歲華  
雁足黏將疑繫帛  
烏頭点著思歸家

謫居の春雪

菅原道真

七言絶句（下平・六麻）

城に盈ち郭に溢るる幾ばくの梅花ぞ  
猶ほ是れ風光早歳の華  
雁足に黏き將て帛を繫ぐるかと疑ひ  
烏頭に点し著きて家に帰らんことを思ふ